



お問い合わせ先

中国四国農政局広島県拠点

〒730-0012 広島県広島市中区上八丁堀 6-30 広島合同庁舎 2号館 6階
☎082-228-5840

中国四国農政局農村振興部農村計画課

〒700-8532 岡山県岡山市北区下石井 1丁目 4番 1号 ☎086-224-4511

取組事例集

「ディスカバ―農山漁村の宝」(第6回選定)応募団体

令和2年3月
中国四国農政局

広島県



発刊にあたって

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」は、内閣官房及び農林水産省が、「強い農林水産業」「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良な事例を選定し、全国への発信を通じて他地域への横展開を図るもので、今年度（令和元年度）で6回目となります。

中国四国農政局管内では220件の応募があり、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として6地区と1名（全国31地区と5名）が選定されました。

さらに、中国四国農政局では、応募のあった地区の中から、他の地域の参考となるような優良な事例を、「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として21地区と3名を選定するとともに、今年度から今後の活躍が期待できる事例を、「奨励賞」として14地区と5名を選定しました。

また、今年度応募のあった地区の事例について、その地域での「農山漁村（むら）の宝」として広く情報発信するとともに、身近な地域の取組として紹介するため、各県別の事例集を作成しました。

各地域において参考にしていただき、農山漁村や農林漁業への関心を深めていただくきっかけになれば幸いです。

※「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の情報は、中国四国農政局のホームページ（下記URL）をご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/chushi/nouson/kaseika/discover.html>



令和2年3月

中国四国農政局農村振興部

目 次

○ 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」について	1
○ 応募団体一覧	8
○ 応募団体位置図	9
○ 応募団体の取組事例	10

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」について

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国へ発信するものです。

1. 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第6回選定）

今回の「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第6回選定）では、令和元年7月1日から9月2日までに、農山漁村活性化の取組として全国から931件（管内からは220件）の応募があり、10月21日に首相官邸で開催された第3回有識者懇談会において団体部門（コミュニティ部門及びビジネス部門）として31地区と今回より新設された個人部門として5名が選定されました。

12月3日開催の選定授与式及び交流会では、選定地区の代表者を首相官邸に招いて選定証を授与し、内閣総理大臣、農林水産大臣、地方創生担当大臣からの直接の激励や地域リーダー同士の交流が行われました。また、12月4日には「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の紹介や選定地区の知名度向上に資するため、東京都内で選定地区による即売会（マルシェ）が開催されました。

中国四国農政局管内から優良事例として6地区と1名が選定され、その中から最優良地区のグランプリに島根県大田市の「株式会社 魚の屋」が選定されました。



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」交流会



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」ロゴマーク

2. 中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

中国四国農政局では、管内で応募のあった220件の中から、他地域の参考となるような優れた地域活性化の事例を「中国四国農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』」として広く発信することとし、令和元年11月、中国四国農政局において選定委員会を開催し、21地区と3名を選定するとともに、今後の活躍が期待できる事例を奨励賞として14地区と5名を選定しました。



中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」
選定地区オリジナルロゴマーク

(1) 全国版選定地区〔管内〕の概要（ディスカバー農山漁村（むら）の宝（第6回選定））

株式会社 魚の屋（島根県大田市） **グランプリ受賞地区**

- 国内市場が1%しかない天然わかめの刈りとりを漁師に依頼し、それをもとに新商品開発と販売を実施。
- 天然わかめの加工処理について、加工場で行うほか、障がい者就労施設や一人暮らしの高齢者に作業の一部を委託。



天然わかめを採取している姿

浄謙寺（広島県北広島町）

- 地域の魅力と仏教を伝えるため、地元産野菜を用いて作ることが可能なイタリアン精進料理の取組を実施。
- 料理の提供だけではなく、住職とともに読経や説法も合わせて実施。



食前の法話風景

株式会社 三見シーマザーズ（山口県萩市）

- 規格外の魚を収入に繋げるとともに、食事に困っている一人暮らしの高齢者へ食事を宅配しようと、弁当・惣菜の加工・販売の取組を実施。
- 道の駅のレストランを運営し、鮮度の高い地元産の魚料理を提供。
- 小中学生を対象に料理教室を実施し地元の魚のおいしさを伝える。



高齢者宅へのお弁当・惣菜の宅配

新居 希予（徳島県阿南市）

- 結婚により12代続く米農家で栽培に従事し、農業の厳しさや農産物の将来性、地域の魅力などを伝えることの重要性を痛感し、わかりやすく消費者に伝える「表現する農業」の取組を実施。
- 伝統黒米「弥生紫」の唯一の生産農家として伝統を継承する傍ら、地元テレビやyoutubeでの配信、学校の農業体験などにより生産現場から情報発信。



食いしん坊図絵を作成し食育、メディアで活用

愛媛県立 宇和島水産高等学校水産食品研究部「フィッシュガール」
(愛媛県宇和島市)

- 愛媛県産魚のPRを行うため、産官学の連携の下で女子生徒が養殖クロマグロの解体ショーや加工品開発、魚食の実演販売を実施。
- 「ブリ大根缶詰」や「鯛めしの素缶詰」等の開発製品を国内外で販売。



ハワイでのマグロ解体

農業生産法人 株式会社 ミヤモトオレンジガーデン（愛媛県八幡浜市）

- 「農業を事業として取り組む」との考えで、グローバルGAPや6次産業化に積極的に取組ながら、みかんの農業法人を運営。
- 廃棄していた摘果みかんを調味料「塩みかん」に活用するほか、GAP認証取得支援システムを開発し、他社の取得を支援。



GAP 経営研究会を開催

農事組合法人 ヒューマンライフ土佐（高知県越知町）

- 山間部の傾斜地でも栽培可能で軽量なため高齢者でも作業ができる生薬を製薬会社との契約栽培で生産。
- 乾燥・調製等の加工作業は他の産地からも集荷して行い、製薬会社に納品。



土佐ツムラの森にて中学生の薬草採取体験

(2) 地方版選定地区の概要（中国四国農政局「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」）

農業生産法人 株式会社 D's プランニング（鳥取県大山町）

- 勤務体系はサラリーマン並みを目指し、早朝出勤した場合は夕方早く帰宅できるよう配慮されている。また、子育て世代のお母さんや年配の方でも作業ができるよう棚の高さや作業工程など工夫している。
- 制服（作業着）やホームページの作成にこだわりを持ち、今までの農業のイメージとは違う情報発信をおこない雇用の確保に努めている。
- 2018年 ISO9001 取得



日々切磋琢磨し、頑張っています！

出雲市斐川土地改良区（島根県出雲市）

- 次世代を担う子供達を対象に平成12年度から出前授業、遊水池で行う生き物調査などを実施。
- 非農家も参加した水路の草刈や泥上、子供達も参加した「花のまちひかわ」の活性化に向けた植栽活動、水路脇の親水公園を活用したホタルの育成を実施。
- 米米（まいまい）田んぼとして、給食用米の田植えや稲刈り体験を実施。



保育園児と地元住民による植栽活動

株式会社 おおち山くじら（島根県美郷町）

- 町内で捕獲されるイノシシの約7割を集約し「おおち山くじら」という地域ブランド商品として確立し、全国へ販売展開。
- ポトフやカレーなどの6次産業化やイノシシの内臓は、ペットフード商品の原料などに活用。
- 革製品の制作により、女性・高齢者活躍の場の創出。



地域の女性部による革製品の製作

岡山県立 岡山南高等学校商業クラブ（岡山県岡山市）

- 米トレーサビリティ制度の勉強会を行い、制度の概要や社会的役割について学ぶ。
- 「駅弁」を企画することを決め、地元企業「株式会社三好野本店」に製造を委託。
- 農業が盛んな岡山県の特性を生かした、米だけでなく、様々な県産品を使った駅弁を開発し、発売までを実現。



休校日を使って定期的に販売会を開催

合同会社 ど根性ファーム（岡山県笠岡市）

- 通年栽培が可能な青ねぎを栽培。
- 障がい者・高齢者の作業の多様性創出と収益性アップのため、カットネギの製造に取り組み、6次産業化の認定を受ける。
- 生産から加工に係る作業工程において、座って作業ができる環境を整備するなど、働き手が作業しやすい環境を整備している。



座って作業できる環境を整備

みかわてらす（岡山県矢掛町）

- 専門家のアドバイスを得ながら、地域内にある農産物を活用した商品の開発を行った。
- 商品のコンセプトは「フタを開けてすぐ野菜が食べられる」等、健康志向の高い女性をターゲットとした商品開発に取り組み、パッケージ等にまでこだわった「陽気なピクルス」を開発した。
- カフェ「えんがわ食堂」をオープンし、ピクルスを使った食事を提供。



陽気なピクルス

農事組合法人 よしやま（広島県広島市）

- 農業体験教室の実施。
- 地元企業との連携による経営の安定化、及び地区の活性化。（メーカーとの契約栽培、ミニ道の駅（Oishi 吉山）の誘致、地区内レストランとの連携）
- 地区内での積極的雇用。植え付け、収穫期に年間延べ2,000人のアルバイトを雇用。



農業体験教室

株式会社 敷信村農吉（広島県庄原市）

- 自社農場米や地元旬野菜を使用した給食の提供、園庭での野菜を栽培など、農が身近にある地域特性を生かした保育を実践。
- 農家所得の向上や地域内交流の活性化のため、H20年に野菜の販売や卸を開始。耕作放棄地を活用した自社農場もスタート。
- 「日本の酪農の礎を築いた地」であることを知った地域の若者の希望を受け、H25年にチーズ工房を新設。



農とともに、地域とともにある保育の実践

本多 正樹（広島県安芸高田市）

- 農地中間管理機構を活用し、担い手間で農地を交換。
- 新規、若手農業者の横の連携を主軸に「新規就農者激励会」というイベントを立ち上げ、若者が地域で活動している事例を発信。
- 地元JA管内の若手農業者グループ「ひろほく農考会」の初代会長。地域の農業をあらゆる角度から考えるため、視察や意見交換などの活動に取り組む。



配食弁当でこだわりのお米を提供しているほ場

株式会社 ハートランドひろしま（広島県北広島町）

- 省エネ・環境にやさしいフィールド養液栽培で、ホウレンソウを通年栽培。利用者が整地、収穫、選別、袋詰め等の全作業を行う。
- ミニトマト、大根、白ねぎ等をハウスや露地で栽培。ミニトマトは、各ハウスを担当制にし、利用者1名が責任を持って管理を行う。
- 組合員の家族が実際に農業を体験できる場として、組合員交流を年8回開催し、農業や福祉への理解を促進。



養液栽培のホウレンソウと利用者

株式会社 秋川牧園（山口県山口市）

- 地元農家と飼料用米生産のネットワークを形成。米農家の技術を活用しつつ、グループで行う視察会を通じて栽培技術の向上と生産意欲を拡大。耕作放棄地を復活。
- 多収専用品種の飼料用米を給餌した鶏の堆肥を飼料用米の栽培圃場に投与し、理想的な循環型農業を実現。
- 飼料用米多収日本一コンテストへの応募。グループから平成29年の農林水産大臣賞（日本一）受賞を筆頭に毎年受賞者を輩出。



年2回実施する、飼料用米検討視察会の様子

株式会社 木原製作所（山口県山口市）

- “地域創生”として企画立案、乾燥技術提供、試作品開発、パッケージデザイン提案、保存・販売アドバイス、商標登録実務までを無償で行い、市内事業者の商品開発をサポート。
- 事業者とともに、ドライフルーツ、漢方薬原料、和紙、パン、花のふりかけ、カレー等、従来の乾物のイメージを覆す多彩な利用方法と商品を開発。



開発商品の合同販促体験

特定非営利活動法人 ゆや棚田景観保存会（山口県長門市）

- 耕作放棄地を無償で借り受け、さつま芋や景観作物の植付、ハーブの植付による鳥獣害対策など、棚田の保全活動を実施。
- 小中学生を対象とした花香づくり・昆虫トレール教室、いも掘り体験の受入など、体験教室を開催。



夏休み宿題お助けツアー：昆虫とれ～る

株式会社 農家ソムリエーズ（徳島県徳島市）

- 香港、台湾、マレーシア等のアジア圏へ輸出を行い、県や地域商社と連携し、現地でイベント販売とプロモーションを実施。
- サツマイモチップス「おさっち」を開発・販売。自社生産した「なると金時」を使用し、生産、加工及び販売を行う6次産業化を実現。
- 地域の子どもたちに栽培体験を通じた食育の推進。



なると金時チップス おさっち

GOTTSO 阿波（徳島県阿波市）

- GOTTSO（ごっつお）とは阿波弁で「ごちそう」という意味。野菜の出張販売や広報などを行い、農業の盛り返しを図る。
- 「美～ナス」を使い、幼稚園や小学校での食育を通じて、消費量増加への取組を行っている。
- 「グローバル GAP」、「とくしま安2 GAP 農産物」認証の優秀認定」を取得し、東京オリンピック・パラリンピックの選手村に「GOTTSO 美～ナス」の納品を目指す。



2019 年度 PR 用ポスター

西岡田 治 治（徳島県つるぎ町）

- 標高 300m、傾斜 30 度の急傾斜地の畑 20a で栽培しているソバの花が満開の毎年 9 月下旬から 10 月中旬に観光農園として一般開放し、急傾斜地農耕を実感してもらっている。
- 平成 27 年、旧暦 10 月の最初の亥の日に行われる地域の伝統的農耕行事「お亥の子さん」を、地域の小学生とともに 25 年振りに復活させた。



花咲くソバ畑

有限会社 赤松牧場（香川県高松市）

- 赤松牧場が堆肥を供給した圃場で、耕種農家が稲 WCS を栽培し、生産した稲 WCS を飼料として畜産農家へ供給。平成 28 年に WCS 生産組合を設立し、平成 30 年には耕種農家 14 名で、栽培面積を 20ha まで拡大。
- 堆肥調整保管施設の整備等を実施し、耕畜連携の可能性を拡大。
- ジェラートショップは地産地消のため、近隣農家のブドウ・イチゴ等を仕入れて利用。



堆肥を利用して栽培したトウモロコシの収穫

香川用水土地改良区（香川県高松市）

- 平成 29 年 7 月に香川用水記念会館の移転整備を行い、新たな記念会館を拠点とする情報の発信。
- 小学 4 年生を対象に出前授業を開催し、併せて香川用水施設の見学と幹線水路内の清掃作業を実施。
- 幹線用水路（59km）について、地域住民のボランティアに巡視員を委嘱し、地域住民と一体となった施設巡視体制を構築。



香川用水幹線水路・開水路区間

阿部 隆弘（香川県三木町）

- JA 関係者と障がい者の工賃値上げ交渉を行い、単価の値上げ、休日の割増賃金及び交通費の支給を実現し、申し合わせ書を作成した。
- 市町と連携して障がい者就労施設を対象とした参入促進説明会や技術研修会の開催、農福連携による農作業の説明用マニュアルを作成している。



平成 30 年度 農作業支援強化研修会・琴平

四海漁業協同組合（香川県土庄町）

- 「小豆島 島鯉」を名乗るため、4つの基準を設け、他地域との差別化を図る。
- 島内業者が水揚げしたハモを共同出荷することにより安定した品質・出荷量を確保。
- 加工品の開発を可能とするため、ハモ骨切機、大型真空包装機等を導入し、骨切を行ったハモの販売（1次加工品）に取り組む。
- 京都産業大学と連携し、情報発信を強化。



小豆島島鯉まつり・初出荷式

株式会社 玉津柑橘倶楽部（愛媛県宇和島市）

- 被災直後、玉津クラウドファンディングを立ち上げ、全国からの義援金はスプリンクラー施設の補修費に充当。
- ボランティア、アルバイトの受入れには宿泊施設が無いいため受入人数に制約があったが、JA えひめ南と連携し研修施設を開設。
- 生産者の所得向上を目的に、みかんや宇和ゴールド（河内晩柑）のジュースを商品化。



玉津オリジナルみかんジュース

道の駅よって西土佐（株式会社 西土佐ふるさと市） （高知県四万十市）

- 新たな名物として、地域の食文化を尊重しつつ「洋」を取り入れた、四万十天然鮎を使った「鮎のコンフィ」を開発。
- 生きた鮎を築地市場へ運ぶための品質管理、流通技術・管理を開発。現在天然活魚を豊洲市場に送っているのは四万十川のみ。
- 上流から下流まで「全漁協による四万十鮎ブランドプロジェクトチーム」発足。



日本で唯一鮎市場のある道の駅

農事組合法人 上東（高知県いの町）

- 集落営農組織主体で機械の共同利用や農作業の受託に取り組む。有望品目研究部門を設立し、全組合員が野菜作りに親しむ環境を整備。
- 何度も協議を重ね、平成31年1月に「農事組合法人上東」を設立し生産体制を強化。
- 3月末のカタシの花祭り時期に合わせ住民手づくりのイベントを開催し、都市住民との交流を図る。



農事組合法人上東 設立総会

集落活動センターゆすはら西推進委員会（高知県梶原町）

- 獣肉解体処理施設の建設とジビエカーの導入（平成29年度）。
- 鹿の捕獲は多いが町中心部から遠い松原区を中心にジビエカーを運用することで、解体処理施設への円滑な搬入を実施。
- 元ゆすはら応援隊員や移住者等の担い手人材を雇用。



新設した解体処理施設と日本初導入ジビエカー

「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第6回選定) 応募団体 一覧 (広島県)

No.	選定地区	部門	市町村	団体名	該当する取り組み		
①		コミュニティ	広島市	里山あーと村運営協議会	農林漁業、 農村文化体験	環境保全・ 景観保全	-
②		コミュニティ	広島市	農事組合法人 よしやま	自然・景観・ 伝統・継承	食育・教育	女性・高齢者の 活躍
③		コミュニティ	広島市	特定非営利活動法人 NPO狩留家	伝統の継承	6次産業化	高齢者の活躍
④		コミュニティ	広島市	川内若農家会	伝統の継承	食育・教育	教育機関との 連携
⑤	奨励賞	ビジネス	広島市	株式会社 ルンビニ農園	強い農業の 実践	移住・定住	多様な雇用 環境に適應
⑥		コミュニティ	呉市	倉橋交流拠点構想推進協議会	農林漁業、 農村文化体験	6次産業化	若者・学生の 活躍
⑦		ビジネス	呉市	一般社団法人 とびしま柑橘倶楽部	6次産業化	復興	若者・学生の 活躍
⑧		コミュニティ	竹原市	特定非営利活動法人 ネットワーク竹原	農林漁業、 農村文化体験	伝統の継承	教育機関との 連携
⑨		コミュニティ	三原市	三原市漁業協同組合	農林漁業、 農村文化体験	6次産業化	教育機関との 連携
⑩	奨励賞	ビジネス	三原市	農事組合法人 清流の郷・泉	鳥獣被害防止	環境保全・ 景観保全	雇用
⑪	奨励賞	ビジネス	三原市	株式会社 おこめん工房	農林漁業、 農村文化体験	6次産業化	-
⑫		コミュニティ	福山市	福山市土地改良区	農林漁業、 農村文化体験	環境保全・ 景観保全	食育・教育
⑬		コミュニティ	三次市	川西自治連合会	移住・定住	企業との連携	-
⑭		個人	三次市	合同会社安田農産 代表社員 安田 剛	6次産業化	集落農業者 との連携	-
⑮		個人	三次市	寺河 未帆	食育・教育	6次産業化	-
⑯		コミュニティ	庄原市	株式会社 数信村農吉	食育・教育	雇用	地域活力の 掘り起こし
⑰		個人	庄原市	藤本 聡	農林漁業、 農村文化体験	食育・教育	移住・定住
⑱		ビジネス	東広島市	農事組合法人 ファーム西田口	農林漁業、 農村文化体験	環境保全・ 景観保全	高齢者の活躍
⑲		コミュニティ	東広島市	住民自治協議会 福に富む郷 竹仁	環境保全・ 景観保全	移住・定住	復興
⑳		コミュニティ	東広島市	吉川まちづくり自治協議会	その他(農村コ ミュニティ)	-	-
㉑		コミュニティ	東広島市	豊栄プロジェクト推進協議会	6次産業化	教育機関との 連携	その他 (古民家再生)
㉒		コミュニティ	東広島市	心のふるさと県央協議会	農林漁業、 農村文化体験	移住・定住	6次産業化
㉓		コミュニティ	廿日市市	吉和げんき村	6次産業化	教育機関との 連携	-
㉔		個人	安芸高田市	本多 正樹	若者・学生の 活躍	-	-
㉕		コミュニティ	江田島市	(社)法人江田島市シルバー人材センター 竹炭工房おおがき	鳥獣被害防止	6次産業化	高齢者の活躍
㉖		ビジネス	江田島市	江田島市オーリーブ振興協議会	農林漁業、 農村文化体験	6次産業化	企業との連携
㉗		ビジネス	北広島町	北広島町農山村体験推進協議会	農泊	農林漁業、 農村文化体験	食育・教育
㉘		コミュニティ	北広島町	株式会社 ハートランドひろしま	農福連携	-	-
㉙		コミュニティ	北広島町	浄謙寺	農林漁業、 農村文化体験	伝統の継承	雇用
㉚		コミュニティ	北広島町	芸北茅プロジェクト	環境保全・ 景観保全	伝統の継承	-
㉛		コミュニティ	大崎上島町	大崎上島海生体験交流協議会	農林漁業、 農村文化体験	伝統の継承	食育・教育
㉜		コミュニティ	世羅町	特定非営利活動法人 広島・せらマルベリークラブ	環境保全・ 景観保全	-	-
㉝		コミュニティ	神石高原町	有木自治振興会 田舎応援団 あるぎ倶楽部	農泊	農林漁業、 農村文化体験	環境保全・ 景観保全

1

ひろしま
広島県広島市農林漁業、
農村文化体験環境保全・
景観保全

さとやま

里山あーと村運営協議会

～休日は里山暮らし～



田植えと里山自然体験



森のジャズライブ

経緯

- 阿戸町にある市有林と農林・自然・歴史・生活文化などの資源を活用して、里山を再生したい。
- 市民に豊かな里山体験の場を提供することにより阿戸町の地域づくりにつなげたい。

取組内容

- 市民に豊かな里山体験の場を提供。
 - ・合同行事の開催（農林業体験）
 - ・里山の会の活動
- 里山を再生する。
 - ・大島桜の植栽
 - ・せせらぎビオトープの整備
- 阿戸町の地域づくりにつなげる。
 - ・とんがり食彩交流館
 - ・こもれび工房

活動の効果

- 合同行事の開催などにより、市民に豊かな里山体験の場を提供することができた。また、市民が主体となって、大島桜の植栽やビオトープの整備などを行うことにより、自主的な里山再生が行われるようになった。地元があーと村運営協議会と協働することで、阿戸町の産品を活用した6次産業化にも着手している。

応募団体からのアピール・メッセージ

里山あーと村運営協議会は、地域住民、参加者、行政が協働で運営し、市民が主体になることで、自主的な活動を行っており、誰もが主役になれる場となっています。

広島市安芸区船越南三丁目4番36号 Tel:082-821-4946

2

ひろしま
広島県広島市自然・景観・
伝統・継承

食育・教育

女性・高齢者
の活躍

農事組合法人よしやま

～市中心部から30分に理想の田舎があった！～



農業体験教室



ミニ道の駅 Oishi吉山内野菜直売

経緯

- 平成17年に完了した農業基盤整備事業をきっかけに、法人の前身となる営農組合を設立。
- 地域内での話し合いの中で、農地と地域を守ることを主眼に経営の規模拡大や大型機械による生産性の向上を目指して平成17年に法人を設立。

取組内容

- 農業体験教室
- 地元企業との連携による、経営の安定化及び、地区の活性化
 - ・メーカーとの契約栽培
 - ・ミニ道の駅(Oishi吉山)の誘致
 - ・地区内レストランとの連携
- 地区内での積極的雇用
 - ・植え付け、収穫期に年間延べ2,000人のアルバイトを雇用

活動の効果

- 農業体験教室では、地区の魅力を参加者に伝えることにより、ファンになった都市住民が米や野菜の顧客となり、農作物の有利販売に結びついている。
- 地元企業と積極的に連携し、販路を確保することで経営の安定化を進めている。
- ミニ道の駅内では野菜や米の販売の他、併設するレストランへの食材提供も行っている。吉山地区を訪れる都市住民が増加し、地区の活性化に貢献している。
- 地区内での雇用を積極的に行っており、地域の人達が農作業や話し合いの場を通じて交流が活発化したことで、地域においても、声をかけあい、支え合える「理想の田舎」となっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

広島市内から車で30分の吉山地区。
産直市やレストランに、おいしい吉山があふれています。
皆さんに笑顔になっていただける「田舎」がここにありますので、ぜひお越し下さい。

広島県広島市安佐南区沼田町吉山1242 Tel:082-839-3450

かるが

特定非営利法人NPO狩留家

～「狩留家なす」で町おこし～



狩留家なす収穫祭



害虫被害を防止するための袋掛け栽培

経緯

- 「ないない何もない狩留家」に「買い物やおしゃべりができる場所」を作って賑わいのある町にしたいと思った。
- 35年以上前から3軒の篤農家だけが自家用に栽培し続けていた「白なす」、「色がこんなので売れないの!」。早速試食「これは美味!(青リンゴのような薄甘さ)その上、こんな色だからこそ差別化商品になるぞ!」と直感した。「狩留家なす」と命名し、ブランド野菜として栽培・販売することにした。

取組内容

- 「狩留家」という地名が知られていないので「狩留家」の地名を普及させるために「狩留家なす」と命名した。
- 「狩留家なす」をブランド野菜化としてPRするため「狩留家なす収穫祭」を毎年狩留家集会所で実施。
- 平成30年の豪雨災害後、害虫被害が続出したが令和元年は「袋掛け栽培」などの栽培技術の改善・普及をしている。
- 今後、輪作作物の選定は6次産業化推進可能な作物を中心に選定し、6次産業化で賑わいのある狩留家の創造したい。

活動の効果

- マスコミが「狩留家」と「狩留家なす」をブランド野菜としてニュースに大々的に取り扱ってくれた。現在、商品不足で市場で余り見当たらないと消費者から苦情が入る。
- 「狩留家なす」の栽培意欲が高まって狩留家の350世帯のうち75世帯(21%)が狩留家なすを栽培しあちこちにおすそ分けし始めた。
- 小学校や保育所でも「狩留家なす作り」実習をしNPOメンバーが栽培指導をしている。
- 知的障害者の親の会の方々も子どもさん共々狩留家に来て「狩留家なすづくり」をしている。

応募団体からのアピール・メッセージ

生活交通の便さえよければ、何時までも住み続けたい狩留家です。狩留家ジンは皆で助け合う相互扶助の心を持った人達です。NPOも皆の為に多くの人で「狩留家なす」を栽培しています。「花いっぱい」の狩留家も徐々に整いつつあります。「狩留家なす」は地域起こしの担い手です。地域の活性化なくして、最後まですみ続けられる町づくりは出来ません。

広島県広島市安佐北区狩留家町3544-1 Tel: 082-844-0826

かわうちわかのうかかい

川内若農家会

～生きた文化財・広島菜の継承～



住宅地の中で残る伝統野菜・広島菜



川内若農家会のメンバー

経緯

○川内地区は日本三大漬菜の一つ広島菜の発祥の地。約130年前に川内地区の農家が品種改良し現在の形になったとされています。以降、地域で守って来た特産物ですが都市部の為、宅地化などによる影響で川内地区の農地が激減(80%以上減)伝統の継承が困難になってきた為、若い生産者を中心に文化継承、技術継承の活動を開始。

取組内容

- 地元小学校や保育園などで広島菜の種まき、収穫、漬物加工など食育授業をサポート。
- ベテラン農家から栽培技術や在来種の採種の技術などの継承の勉強をしている。また、広島菜には各生産者よって血統の違いで姿かたちが異なる為、その集計も行った。
- 地元大学教授の協力の元、ベテラン農家から聞き込み、古い文献を整理し、広島菜の歴史調査を開始。

活動の効果

- 川内地区が都市部にある為、非農家の家庭が多く、地域とのコミュニケーションを積極的に行い都市農業と地域住民の相互理解を進めている。
- 当初7名の盟友が3年間で14名に倍増し、広島菜の伝統継承の後継者により、川内地区の広島菜の生産量(JA出荷分)が約600トンから約800トンに増加(約30%増)
- 2020年11月23日を目標に広島菜に関する郷土資料を大学より出版予定。

応募団体からのアピール・メッセージ

企業や大学関係者、メディアから支持をもらい川内地区発祥の広島菜の認知度が向上しました。

現在、中国地方初の生産緑地制度導入に向け、JA、行政機関と調整をしています。

広島県広島市安佐南区川内地区

株式会社ルンビニ農園

農家連携～企業連携～働き方改革で強い農業



農場風景。中山間地域



高齢者、身障者など多様な職場環境づくり

経緯

- 農業には、経済の観点だけでは測れない、多面的で豊かな価値がある事に気が付き、農業を残したくても残せない現実に向かうためには、強くなくては残せないと感じ、「強い農業」を目指して就農。
- 資材の仕入価格を抑えるとともに、契約出荷を拡大するなど、時代の変化に対応しながらも理念を見失わずに、規模拡大しながら、持続可能な「強い農業」を実践し、販売高、利益の向上を図ってきた。

取組内容

- 地元飲食店と地元企業の3社でバジルドレッシングを開発。
- 農家の有志グループを結成し、資材の直接仕入れや販路を拡大。
- 地元企業と連携し、全国初の民営民設の学校給食センター事業に出資。近隣農家もまき込み、直接取引により地産地消率を向上。
- 福利厚生、有給休暇、育児休業など農業でも安心して家族を養える雇用環境の整備。

活動の効果

- 社員3名の内、2名が地域に移住。若い世帯が2世帯増え、共に子供2名ずつが地域の小学校へ通うなど、地域を活性化。
- 令和2年春に新農場が完成予定。農園規模は約2倍近くまで増える予定であり、来期も社員2名の新規雇用を予定しており、移住を進め地域の活性化に努める。

応募団体からのアピール・メッセージ

週40時間未満労働のライフワークバランス型の社員雇用を予定している。
 現在、農福連携にもトライしており、来期は農福連携の割合を増す計画。
 引き続き、高齢者、女性、障害者等の多様な人材が活躍できる職場環境づくりを目指し「強い農業」と「農業の働き方改革」の実現に取り組む。

くらはし

倉橋交流拠点構想推進協議会

～ヘルシー アイランド 倉橋～



船上市場



ハーバーレストラン

経緯

- 平成29年、倉橋漁港整備の議論を契機として、地域の将来像を共有しつつ、さらなる自立と活性化に向け、地区内の自治会、漁業者、農業者、商工業者、NPO、まちづくり団体等多様な組織が連携し、英知と行動力を結集する場として「倉橋交流拠点構想推進協議会」を設立。

取組内容

- 倉橋海の駅棧橋で、「船上市場」を開催し、地元漁師が獲れたての魚介類を漁船の上で直販し、新鮮さと珍しさを印象付けた。
- 倉橋産の農産物や魚介類などを使用した本格的な料理やお酒を楽しみながら、音楽を楽しむことができる「ハーバーレストラン」を実施し非日常空間を演出した。
- 倉橋島の特産品であるちりめんの燻製パウダーを利用した風味豊かな衣で地元の未利用魚介や野菜などお宝食材を包むフリットに、倉橋産レモンの酸味が利いたタルタルソースを添えて提供する新郷土料理”倉橋島お宝フリット”を開発。

活動の効果

- 「船上市場」により集客効果が増し、賑わいを演出するとともに零細漁業者の販売機会拡大、販売経費の抑制、参加漁業者の収益の増大を図れた。
- 「ハーバーレストラン」は、町内外の来場者に好評を博すとともに、倉橋島の新たな魅力の発見・発信と価値の創造につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後は、倉橋交流拠点構想推進協議会が、中心となって構成団体相互の連携を密にし、外部等の専門化の意見や助言を取り入れながら、地域の課題解決に取り組み効果的かつ持続可能な仕組みづくりなど地域基盤の整備を行い、倉橋地域の資源を活かした賑わい創出を図ります。

かんきつくらぶ

一般社団法人とびしま柑橘倶楽部

～愛とレモンで島おこし～



農園作業ボランティア



ITを活用したレモン栽培実験中

経緯

○生産者の高齢化や後継者不足、輸入による国産価格の下落などの課題を抱える、島の伝統産業であるレモン栽培が絶えることに危機を感じ「愛とレモンで島おこし」を合言葉に、「とびしま柑橘倶楽部」を立ち上げ日本全国にレモンを広める活動を行うようになった。

取組内容

○月に1回柑橘農家とのミーティングを実施。課題ごとの専門家を呼び、勉強会やフォーラムを開催している。
○耕作放棄地をレモン畑に再生するためのクラウドファンディングを実施し学生団体共同農園を開園。

活動の効果

○柑橘農家とのミーティングを重ね地域課題・農業課題が明らかになった。勉強会、フォーラムには広島県内外・海外からのべ270名参加し、異業種交流など連携・マッチングを図った。
○学生団体STYLEと耕作放棄地を開拓し再生。約20アールの耕作放棄地を再生しレモンの苗木60本を植樹。約5年後には1トンのレモンを収穫見込み。
○レモン栽培発祥の地、大崎下島の農園が拠点となり、SNSなど様々な媒体で呼びかけ、現在行われている農業の機械化・IT化、様々な課題を解決するためのコンソーシアムに繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

復活がゴールではなく新しい物語の始まりである「黄金の島再生プロジェクト」。とびしま海道のレモンがつなぐのは私たち島の未来です。
島を商品と人をつなげ日本中に私たちのレモン商品が届けられる、私たちが持っているノウハウが地方地域で活用され世界ともの繋がれる未来を作っていきます。

広島県呉市川尻町東3-8-35 Tel: 0823-87-0080

たけはら
特定非営利活動法人 ネットワーク竹原

地域の宝～塩と竹と町並みと～



塩づくり体験



点灯した竹灯

経緯

- 高齢化の進行・人口の流出により、空き家や空き店舗の増加など活力の低下が目立ち、地域コミュニティや文化・伝統が失われつつあった。
- 地域社会の生きがいと活力を見出し、地域資源の掘り起こし、歴史文化の継承、子供の育成、環境保全活動を中心とした活動をするNPO法人を2003年に設立。

取組内容

- 江戸時代300年余り塩づくりで栄えた竹原、歴史的遺産である竹原塩田の再生に向けた昔ながらの塩づくりによる「たけはらの塩」の製造販売。復活させた塩づくりを知ってもらうための塩づくり体験等を実施。
- 竹原の地名の由来といわれている竹を活用した、竹灯りづくりのワークショップの開催。竹の楽器作りや竹の楽団を設立し、竹の魅力の再発見と、自然環境活動の実施。

活動の効果

- たけはらの塩を使ったオリジナルジェラートも販売開始。たけはらの塩が市内各所の菓子店、パン屋、料理店、カフェなどで使われるようになり、竹原の塩づくりを通じた町づくりの推進・地域の活性化が図られた。
- 地元小学生が考案した竹を使ったアイデア商品を小学生とともに開発し販売を行うなど竹を通じた町づくりの推進・地域の活性化が図られた。

応募団体からのアピール・メッセージ

「塩」・「竹」・「町並み」をテーマに地域づくりの活動を積極的に展開し、新たな地域の宝の発掘・継承・発展につながる活動を行っています！

竹原市本町1丁目9-11 Tel:0846-22-0214

みはらし
三原市漁業協同組合

～タコなら三原「三原やっさタコ」は宇宙一～



タコ壺体験学習



「三原やっさタコ」ロゴ入り大漁旗・提灯

経緯

○三原のタコ漁は、江戸時代より代々世襲制で漁場を大切に守りながら、伝統の技を駆使し、必要以上に取り過ぎないことに配慮した漁が営まれてきた伝統あるタコ漁だが、全国的な認知度が低いことから、市が代表特産物として振興していく方針を出し、タコ漁体験やPR等の取組を開始。

取組内容

- 道の駅「みはら神明の里」内にタコ天等加工品の販売コーナーを設置。平成26年に市の特産品として「三原やっさタコ」の商標権を取得。
- タコ漁の認知度を高めるための水産教室やタコ漁体験の開催、学校給食の食材としての提供や、「三原やっさタコ」の提灯等を作成し、提灯は「三原やっさタコ」を扱っている市内料理店へ貸与するなどし、市全体での取組を実施。

活動の効果

- 県外各地よりタコの注文が来ており、「三原やっさタコ」の知名度が浸透してきている。
- 市内の学校給食への提供や、加工施設の見学依頼を受けるようになり、「食と漁業」の距離が近くなるとともに、県外の漁協との交流・情報交換が行えるようになった。
- タコ以外の魚種についても販売金額が増加しており、漁協組合員の所得向上に繋がっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

三原のやっさタコは足が太くて短くうま味がぎゅっとなまって美味しいよう～♪
一度食べてみんなさい♪

三原市古浜1丁目11-1 Tel:0848-62-3056

せいらゆうのさと いずみ
農事組合法人 清流の郷・泉

～年中農作業、楽農バンザイ！～



赤しその収穫風景

千切大根



千切り大根の加工風景

経緯

- 平成21年より経営体育成基盤整備事業によって整備された大規模圃場及び農道・水路を活用して、大規模農業形態を確立し、地域農業を発展させるべく、集落型農業法人を設立し平成22年度より活動開始。
- 営業利益が赤字で補助金頼みの経営から脱する必要性を感じた。

取組内容

- 清流の郷・泉 戦略マップを策定・実践することにより、実需者と連携した加工用野菜、ブランド米を生産。
- 環境保全活動として、荒廃農地防止のためのカボチャ栽培、鳥獣害防止・環境維持活動として鳥獣害防止柵の設置、山すその下刈を実施。

活動の効果

- 清流の郷・泉 戦略マップに基づき、特別栽培米を中心とした水稻栽培、赤しそ、大根を中心とした5品目の野菜を栽培し、年間を通じた営農体系を確立し雇用を創出。
- 実需者との連携強化を図ることにより、業務用を中心とした、大根、人参、赤しそを安定価格での販売が可能となった。

応募団体からのアピール・メッセージ

私たちは農業を通じて、人を愛し地域を愛して、日々美しい努力を続けます。

株式会社おこめん工房

～米粉が地域を変える～



活動地域の全景



製麺作業

経緯

- 稲作を基幹産業とする三原市大和町では、米消費の減少、米価の低迷により、次世代を担う若者の就農意識が減退し、過疎化・高齢化が進み集落の存続が危ぶまれる状況となった。
- 食の多様化のなか、時代のニーズに合った米の活用を考えなければと考え、米粉麺製造をはじめとする、米粉用米の取組を始める。

取組内容

- 平成17年4月から米粉麺（おこめん）の製造販売を開始し、平成26年米粉麺増産のため、地域の廃校内に工場を移転し、年間製造数量が製造開始時の8千食から35万食に増大。
- 地域内の農事組合法人（1法人）、営農組織（2組織）と連携し米粉用米の生産と販売強化に取組むとともに、三原市、地域企業と連携し6次産業化を進める。

活動の効果

- 製造工場の移転と併せ、三原市と連携し、廃校敷地内に米粉専用の製粉工場の誘致、米粉用専用低温貯蔵庫を市が整備することにより、広島県内、中国四国地方一の米粉用米の生産地となった。
- 三原市、地域企業と連携強化に努めることにより、「三原市米粉の里プロジェクト」が立上げられ、米粉による新たな特産品づくり、地域活性化を目指すこととなった。

応募団体からのアピール・メッセージ

次世代に継承できる稲作経営を目指し、地域一体の米粉事業を展開します。

ふくやまし

福山市土地改良区

～「ふるさと」の「水と土と里」を守る活動～



子ども絵画展表彰式



スイゲンゼニタナゴの生息調査

経緯

○水土里ネット福山の「農業用水・施設管理」の役割を広く市民に周知するため、水土里レポーターとして、子どもたちが関わる農業体験や地域行事の取材を通じ、子どもの農業に対する眼差しをメッセージとして発信し、食と農業用水への関心を高める取組を開始。

取組内容

- 農業用水路の役割等の出前授業など子どもたちへの農業体験支援、農業用水路での国内希少野生動植物指定の「スイゲンゼニタナゴ」の地域保全活動を支援。
- 全国土地改良事業団体連合会主催の「ふるさとの田んぼと水 子ども絵画展」に幼稚園等からの応募により水土里ネット福山独自の賞を選定し、全国受賞者の作品と併せて、ふくやま美術館へ展示、表彰式を開催し、子どもたちがふるさに誇りを持てる取組を実施。

活動の効果

○子ども絵画展では、ふくやま美術館での受賞作品の展示・表彰を行うことで子どもや保護者等から「この賞が励みになっている」との声があるとともに、昨年7月の豪雨災害での排水機場などの役割が認識され、絵画の中には被災した農家を思う子どもたちの心情が描かれた作品もあり、出前授業などの取組が浸透してきている。

応募団体からのアピール・メッセージ

都市農業地域における農業用水などの社会的・公益的な機能の持続と地域特産農産物のブランド力向上と持続的な振興をめざして、21世紀土地改良区創造運動に取組んでまいります。

広島県福山市草戸町1丁目5番15号 Tel:084-923-9450

かわにし

川西自治連合会

～ビジョンに描いたまちづくり～



2周年記念感謝祭でにぎわう川西郷の駅



交通実証実験で移動中の利用者の笑顔

経緯

- 人口減少とともに地域内にあった産業は衰退し、買い物する場所さえもなくなっていた。
- 地域の将来をどうデザインすれば、地域に誇りを持ち住民が安心して暮らせるかが最重要課題となった。
- そこで、ビジョン策定委員会を立ち上げ、地域の将来像を自らの手で描いていった。

取組内容

- 「川西郷の駅」のオープン
H29年、コンビニ、農産品や加工品の直売所、軽食食堂の部門がスタート。今後、防災・福祉・体験交流等複合的機能を有する施設に成長できるよう調査・研究中。
- 地域内交通の実施
県、市、マツダ株式会社と連携してH30年度からスマートフォンアプリを活用した地域内交通サービスを開始。

活動の効果

- ビジョンに描いた生活拠点は、住民出資の「川西郷の駅」となって実現。1日平均800人の来店があり、賑わいを見せている。H30年度からは瀬戸内サイクリンググループと連携したイベント「川西よりみちライド&ウォーク」も開始。
- 公共交通空白地域を有する本地域の移動手段として、ビジョンに描いた地域内の人とモノを移動させる地域内交通サービスが実証実験としてスタート。

応募団体からのアピール・メッセージ

「ビジョンに描いたまちづくり」は、様々な面で地域内外の広範囲な人々、行政、企業と連携していく中で実現へと近づいていくことが分かった。関係人口が無限に広がっていくこの展開を大いに活用し、さらに田舎暮らしがステータスとなる住みよいまちづくりにまい進したい。

やすだのうさん 代表社員 やすだ つよし
合同会社安田農産 代表社員 安田 剛

～もち麦の産地化による精麦もち麦の販売促進～



従業員とともに5Kの農業経営(右4人目が安田氏)



農産物のブランド化プロジェクトの会長に就任

経緯

- 幼少の頃から、祖父が農業の魅力を語り、小遣い銭を与えてくれたことなど、「農業は儲かる仕事」というイメージが定着。
- 祖父母が高齢化し、農作業に支障をきたしている状況を目のあたりにし、H24年にUターン。農業を若者に魅力ある産業にして発信しようと、H27年合同会社を設立。

取組内容

- うるち米依存の経営からの脱却を図り、持続可能な産地化契約地を目指して集落内外農業者を巻き込み酒米を作付。
- 6次化による農業経営の複合化を検討する中で、H29年に農研機構と連携し、寒冷な中山間地向きのもち麦の実証栽培を実施。
- 持続可能な創造的農業経営の5K(①健康産業、②期待産業、③気になる産業、④交流産業、⑤希望産業)に取組む。

活動の効果

- 酒米は肥培管理研修を集落内外の農業者と一体で行い、品質の均一化を図り、酒造会社との信頼関係を構築し、農業所得の向上に繋げている。(自社及び集落内外農業者の作付面積:H27年 15ha → H30年 30ha)
- もち麦は自社の実証栽培による収穫成果を共有して作付け推進を行い、集落内外農業者を巻き込んだ作付けと精麦販売を行っている。(作付面積:H30年 自社5ha、集落内外農業者1.5ha → R1年(計画) 自社6ha、集落内外農業者5ha)

応募団体からのアピール・メッセージ

当集落の地域活性化の礎は、基幹産業の農業の再生と共にあるべきとの使命感で、新事業への挑戦を行い、その実績を集落農家に波及させることで、住民が誇りに想え、自慢できる農業農村づくりにつなげたい。

広島県三次市君田町石原570-1 Tel: 0824-53-2519

てらがわ みほ
寺河 未帆

～異業種出身女性社長が「木づかい」推進！～



森を遊びつくす大人旅 木のおはなしを担当



大学実習でスプーンづくり体験を担当

経緯

- H24年、父親から木工所を事業継承。広島県産ヒノキの商品開発に取り組むうちに、地域の木材資源を活用し、地域の活性化に貢献できないかと考えた。
- 元々食品会社に勤務し、イラストレーターとしても起業。イベントに出品した自社製品が大人気だったことから、「多くの方々に本当の木の良さを伝えたい」と思った。

取組内容

- H26年から毎月（H28年から隔月）自社の端材を販売する「いちば端材市」を開催し、未利用資源を活用。
- H27年から広島大学や県立広島大学などとともに学生、親子向けの木材利用ワークショップを開催し、のべ2,000人が参加。
- H28年に関係者と連携し、森の恵みと暮らしを楽しむ1泊2日の大人旅「森を遊びつくす大人旅」を企画・実施。

活動の効果

- 「いちば端材市」には地域の自伐林家や木製品業者にも出店してもらい、木材資源の有効活用に対する関心を高めることができた。
- 未利用材を原料とする木育教材「ころんプール」を開発、地域の「道の駅」にも導入される予定で、「キッズデザイン賞/ウッドデザイン賞」も受賞。
- H30年県内関係者5名で「木育普及委員会」を設立し、代表に就任。同年の「木育VR体感フェス」には約5,900名の親子が参加し、VRによるハーベスタ伐採を体験。



木育教材「ころんプール」

応募団体からのアピール・メッセージ

一場木工所は、女性だけで運営する木工加工会社。木材利用が公益性を持つことを伝える活動を展開する中で、全国の方々とつながりができました。外から広い目線で地域を見つめなおすことで、地域資源の活用を客観的に考えることにつながっています。

広島県三次市上志和地町195-1 Tel:0824-68-2318



しのむらのうきち

株式会社 敷信村農吉

～地域ニーズのその先へ～小さな農が皆を繋ぐ～



農とともに、地域とともにある保育の実践



手作りチーズは高評価



自社トラックで、地域と都市部を結び配達

経緯

- H18年当時、庄原市は、出生人口の減少により利用者が減少した複数の保育所を、統廃合した上で民間への運営委託を始めた。
- その動きを受け、地域の有志が、統廃合の対象となった地元の保育所を自分たちで運営するための会社を設立。

取組内容

- 自社農場米や地元旬野菜を使用した給食の提供、園庭での野菜を栽培など、農が身近にある地域特性を生かした保育を実践。
- 農家所得の向上や地域内交流の活性化のため、H20年に野菜の販売や卸を開始。耕作放棄地を活用した自社農場もスタート。
- 「日本の酪農の礎を築いた地」であることを知った地域の若者の希望を受け、H25年にチーズ工房を新設。

活動の効果

- 里山の恵みを生かした保育所運営に対し、視察や講演の依頼がある。
- 地場野菜は、広島市を中心に県内複数のスーパーや飲食店の利用に拡大。
- 耕作放棄地を活用した水稻栽培面積が拡大(H26年 56.9a → H30年 342.8a)。
- 地元牧場産生乳100%の手作りナチュラルチーズは、国内・国際コンクールで金賞を受賞する実力を持つまでになり、存在感のあるチーズ工房に成長。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域のニーズから生まれ、事業を拡大している「地域密着型」の会社ですが、事業内容は「地域密着」にとどまりません。異種の事業(保育、チーズ製造・販売、農産物販売)を、「小さな農」というキーワードで有機的に結びつけ、地域とともに歩んでいきます。

広島県庄原市板橋町1358-1 Tel: 0824-72-7634

ふじもと さとし
藤本 聡

～一粒の米から万の笑顔を～



お米は合鴨農法による無農薬栽培



令和元年 32回目の田植え交流会での綱田植え

経緯

- 「安全・安心な米作りと農村交流を通じてより多くの人に農業の魅力を伝えたい」と21年前に就農。
- 10年前に起業し、合鴨農法による無農薬の米作りを軸に、学校や消費者への食育や講演、都市と農村の交流、地元農業文化伝承と次世代農業者の育成、若い農業者同士のネットワーク構築を行う。

取組内容

- S63年から父親が開催していた大阪の消費者と地元生産者との農業交流会に、就農したH11から運営・広報に携わる。
- 地元小学校2校で合鴨農法による米作りの指導を行っている。
- 広島県農業経営者クラブの会長を務め、新規就農者を中心に研修会を開催。
- 庄原市ブランド米推進協議会の副会長を務め、庄原米のブランディングに取り組む。

活動の効果

- 農業交流会には、広島や大阪から250名が参加。地元大学のボランティアサークルの学生60名も交流会を支える。交流会がきっかけで庄原市に定住した者もいる。
- 地元小学校の食育の田植えで、地元の方が田植え歌を演奏したことがきっかけで、「大山のぼりの唄保存会」が結成され、農村文化伝承につながっている。
- 庄原市内の高品質米生産団体や市、JAなどと連携し、庄原米の品質向上と認知・販路拡大を図り、広島、大阪、東京での販売先が増えている。

応募団体からのアピール・メッセージ

GAPの運用と技術研究でより安全で安心な米作りを進め、引き続き地域に波及していく。また、若者との連携やIOTの導入で若者(特に女性)に参画、参入しやすい農業経営の構築を行い、ゆくゆくは定住者を増やして地域の存続につなげていきたい。

庄原市東城町栗田2939 Tel: 08477-2-2528

にしたぐち

農事組合法人 ファーム西田口

～地域の農地をみんなで守る～



広大生協とコラボの
体験農業実施



女性部を中心としたアスパラガスの栽培

機械保有の合理化による生産コストの低減

経緯

- 地域のみんなで農地を守るため、平成18年度経営体育成基盤整備事業に着手し、平成20年4月農事組合法人ファーム西田口を設立。
- 平成22年、法人内に女性部を設立。
- 平成30年、水稻、アスパラ、白ネギ、合計31haに作付けを実施した。

取組内容

- アスパラガス、白ネギを女性部を中心に栽培・収穫し、市場に出荷するほか地元スーパーとの契約販売や小中学校の給食用食材として提供。
- 東広島産コシヒカリを『賀茂八十八米』と命名し、ブランド化へ取り組み。
- 水田で希少植物の「トリゲモ、シャジクモなど4種類」の保全活動。

活動の効果

- アスパラガス、白ネギともに、高品質作物づくりの取り組みで、収益率、収量・販売額の向上を目指し、法人経営の安定化に寄与している。（県内最大の生産規模）
- アスパラガス、白ネギの導入など経営の多角化のメリットや高度化等先進的な取り組みを研修会で発表するなど、県内農業の発展や活性化に貢献できている。
- 全国各地から視察が増えた。
- イベントや農作業体験を通じ、大学生や消費者との交流をはかり作物の『東広島ブランド』化と地産地消に貢献できている。

応募団体からのアピール・メッセージ

これからも法人の仲間や地域の方々とともに、法人経営におけるアスパラガス、白ネギ、水稻等栽培の取組を通じて地域貢献をしていきたいと思っております。

広島県東広島市西条町田口588 Tel:082-430-7787

住民自治協議会 福に富む郷 たけに 竹仁

～芋畑からはじめよう～



サツマイモ植え付け体験



畝おこしを手伝う大学生
広島大学「ふくふく」のメンバー

経緯

- 高齢化の進む「福富物産しゃくなげ館」は、昨年の豪雨で5か月間休業に追い込まれた。
- 地域住民の1割以上が何らかの形でかかわっている場所に対し、営業再開を機に、自治協がその活動を支援したい、と想いから取組が開始された。

取組内容

- 休耕田を借り上げ、区画貸しをするとともに、比較的手のかからないサツマイモの植付験、収穫体験を行っている。
- しゃくなげ館に隣接する広場を「えんがわ広場」(交流広場)と名付け、広島大学の留学生にアースバッグハウスを作ってもらったり、近畿大学工学部の学生がデザインしたイベント用常設テントを建設したりして、地元野菜や古道具や着物などのマルシェを行っている。

活動の効果

- オーナー制による畑の草刈り、畝づくりには、広島大学の学生サークルの「ふくふく」のメンバーの参加や地域内で普段農業に関わりのない仕事をしている人が協力したりと広がりを見せている。

応募団体からのアピール・メッセージ

農業体験をするだけでなく、収穫した野菜を売ることや竹仁地域内の農業を営まない層や地域外の人が集まる場所で、さまざまな地域や年齢の人が、農業を通じ、交流を重ねる中で、後継者不足に悩む農家や休耕田増加の問題解決につなげたい。

よしかわ

吉川まちづくり自治協議会

～里山を基盤としたまちづくり～



地元大学生とコラボし、田植え体験会を開催



地元企業とさとやま整備(企業の森)

経緯

○東広島市市街地から6Kmに位置した地域で、日本の美しい村百選に選定された地域であり、広島大学に近接し、地域内に工業団地があるものの、ほぼ全域が市街化調整区域(優良農地)であることから新たな住宅地化が難しい。高齢化率40%、小学校統合計画(現在保留)等、限界集落化条件を満たしつつあるが、里山を基調としたにぎわいのあるまちづくりに果敢に挑戦している。

取組内容

- 里山を育てる会:里山保全を目的として、地元の活動のほか、企業の環境活動と連携して作業を行っている。地元小学生には、課外授業の一環として現地で里山の大切さを学習する機会を提供している。
- 学生との協働:「吉川ツアー」を開催し、地域外の親子を呼び、田植え・稲刈り・とんどの体験、里山遊びを学生とともに提供。
マーケット:毎月最終日曜に市役所隣の公園で開催される青空市に出店。当地域は、地元露地物野菜中心の販売と地元紹介。

活動の効果

住民自らが農山村の課題を解決

- 後継者:平成25年に、地域の農地55%の委託を受け、農事組合法人「よしかわ」が設立。米以外にも、カボチャ、アスパラ、白ネギ等の生産を行っている。
- 高齢化:①健康寿命の延伸…地域高齢者のコミュニケーションの場―通いの場を開催。
②困りごとサポート事業…個人宅周りの草刈り・せん定作業等の有料サポートを開始。

応募団体からのアピール・メッセージ

- ①江戸中後期から「集落」の記録が残っており、地域結束力と互惠スピリッツは他地域からも評価を受けてます。先達が残した原風景に近い「さとやま」を受け継いでいます。
- ②先端技術の工場群、4つの大学、等の環境。里山と共存する社会を目標にまちづくりに取り組む。
- ③住民一人一人が、里山に関わり、暮らすこと。人生の選択肢となる“まち”を創造しつつ提供します。

広島県東広島市八本松町吉川435-1 Tel:082-429-1879

とよさか

豊栄プロジェクト推進協議会

～豊栄に関わるすべての人を幸せにする～



情報発信拠点「豊栄くらす」



地元小学生デザインのキーホルダー

経緯

○典型的な中山間地域に位置する東広島市豊栄町は、10年前には四千名を超えていた人口が、2019年4月には3,224名まで減少し、高齢化率も47%を超えるほど、最も過疎化・高齢化が進んでいます。このような地域課題に対して、持続的な一次産業の維持、地域社会の発展を目的に、地元企業が中心的な役割を担い、「豊栄のためにひと肌ずつ脱ごう」を合言葉に、産官学民が一体となって活動を始めました。

取組内容

- 地元農家が生産した米をGABAを多く含む機能性表示食品(白米)に加工し3ヶ所の直営レストランで使用。同レストランでは、認定農家の農作物やジビエなどの食材を積極的に活用。
- プロジェクトの拠点「豊栄くらす」は、地元建築家と大学生が中心となり、地元住民や児童、施工業者がワークショップの手法を用いて古民家を再生。
- 地元小学校の児童がデザインしたキーホルダーを商品化。地元高校の自転車部と地域が連携して自転車イベントを企画・運営。

活動の効果

- プロジェクトの拠点では、レストランだけでなく、地域の情報発信・交流拠点として、住民の生きがい創出および健康づくりを目的としたイベント(コーヒー講座、雑貨製作など)も開催されるようになり、2018年には、のべ4,700名が参加した。
- 小学生がデザイン化したキーホルダーの収益の一部は同校に寄付され、環境教育に活用されている。

応募団体からのアピール・メッセージ

2015年には地元農家と企業が共同で農業法人(株)賀茂プロジェクトを設立し、農業を主体に豊栄町を活性化しようと取り組んでいます。地域の活力を維持・向上するために跡継ぎのいないりんご園経営を引き継ぐなど新規就農者のための農業メニューを構築しています。情報発信拠点であるレストラン「豊栄くらす」が地域住民と町外の人々を繋ぐ場となり、活動の幅は農業分野だけでなく、教育や健康福祉の分野へと広がっています。更なる展開を目指して活動を続けて参ります。宜しくお願いします！

心のふるさと県央協議会

～懐かしい心のふるさとのような地域づくり～



セントマルシェイベントの上空からの風景



しめ縄づくり体験写真

経緯

○平成10年代後半にかけて、地元商工会では、地域に埋もれた産業おこし事業を展開しました。その結果、地域内には多くの「物づくり体験」の出来る事業所が点在していることがわかり、二年間事業所間の連携と新しい体験事業の開発及び宣伝活動を行った。その後この事業を継続拡大してゆくために「心のふるさと県央協議会」を立ち上げました。

取組内容

- 地域の体験観光交流事業の推進を図るため、広島駅発着及び西条駅発着のバスツアーを開催した。
- 地域内の体験事業所を巡るスタンプラリーを開催し、地域と各事業所の宣伝を行った。
- フランスのプロバンス地方と県央地域の風景や生活スタイルが似ていることから、プロバンスを手本に素朴で温もりのある暮らしを創造することをテーマに、「セントマルシェ」イベントを開催し地域の産品・特産品（新開発商品等）の販売、ワークショップを行っている。

活動の効果

- バスツアー、スタンプラリーにより、各事業のPRと当地域の宣伝を行い、各事業所及び当地域のファンを増加させることが出来た。
- 「セントマルシェ」は、回を重ねるごとに、出展者・売上額・来場者が増加している。また、「セントマルシェ」は広島市内百貨店に常設出店している。

応募団体からのアピール・メッセージ

広島県中央地域の資源を活用した体験観光、ワークショップ及び特産品の開発(牛乳を使用した商品、ジビエ商品、賀茂地鶏の商品など)を行なっています。これらを「セントマルシェ」ブランドとして広島市内の百貨店、地元県央で開催している「セントマルシェイベント」で、地域の魅力を発信しています。

よしわ

吉和げんき村

～ルバーブで農山村・学校・大学・企業連携～



ルバーブ生産者と小学生の交流・研修



ルバーブの加工品 ソース、ジャム、紅茶、もみぢ饅頭

経緯

- 地域住民である消防団や神楽団員の間で、以前から感じていた高齢化による地域力減少が、暮らしや行事の中で顕在化。
- このまま座視すると地域が失われると感じた若者の地域を元気にしたいという思いが募り、H27年頃から地域の現状把握等を始め、H28年に「吉和げんき村」を設立。

取組内容

- 地域で細々と生産されていた高冷地野菜ルバーブの特産品化及び加工品の開発に取り組もうと、H30年に「よしわルバーブ研究会」を発足。地域住民、小中学校(小中一貫)、大学、商工会、市等が参画。
- 小中学校の生徒が加工品のパッケージをデザインし、実際の商品に採用。
- 地域内外に広く出資を募るため、クラウドファンディングを実施し、ルバーブ加工品の商品化資金を確保。

活動の効果

- 主体的に地域で活動し、地域を元気にするためにはどうすればよいか意欲的に考える若者が増え、異なる世代や今まで接していない住民同士が繋がることのできた。
- 住民主導による商品開発はこれまで経験が無く、今回ルバーブ加工品開発の成功により、児童、学生をはじめ多くの住民が地域の誇りを再確認でき、地域の未来への可能性を感じる事ができた。また、専門家として参画を依頼した大学から、栄養や食品衛生、加工上の提案等多くの知見を得るとともに、大学と地域の連携が図れた。

応募団体からのアピール・メッセージ

地域内で生産、加工、販売の一元化を図り、「吉和＝ルバーブ」となるようブランディングし、他の特産品とともに利用拡大を進め、過疎地でも稼ぎ暮らし続けていく方を確立し、移住・定住につなげていきたい。

広島県廿日市市下平良1-11-1 Tel: 0829-30-9143(廿日市市役所環境産業部農林水産課)


 ほんだ まさき
本多 正樹

～点から線そして円(縁)に・・・未来を見据えて～



配食弁当でこだわりのお米を提供しているほ場



JA広島北部ひろほく農考会が市の功労賞を受賞

経緯

- 農地、文化、景観を維持・継承していくためには、1人の活動では難しいと気がつく。
- そこで、同世代から若年者たちに目を向け、きっかけ作りとして点在している人を線で繋いで円(縁)になるような環境作りができるようになればと考え、多様な活動を展開。

取組内容

- 農地中間管理機構を活用し、担い手間で農地を交換。
- 新規、若手農業者の横の連携を主軸に「新規就農者激励会」というイベントを立ち上げ、若者が地域で活動している事例を発信。
- 地元JA管内の若手農業者グループ「ひろほく農考会」の初代会長。地域の農業をあらゆる角度から考えるため、視察や意見交換などの活動に取り組む。

活動の効果

- 人・農地プランの見直しに当たり、地域や他の担い手農家と連携を取り、担い手間での農地の交換による分散錯ほの解消に努めた結果、経営の効率化や規模拡大に繋がった。(H26年 22.2ha → H30年 47.3ha) 近隣農家・法人にも集積の効果が表れている。
- 10年前の設立時に25名からスタートした「ひろほく農考会」は、現在メンバーが約50名になり、湯崎広島県知事と意見交換会をするなど、地元の認知度も増し、農業に活気が出てきている。

応募団体からのアピール・メッセージ

今の活動を次世代に繋げ、中山間地域の農業を一つの産業として確立し、地域における働ける場所として認識してもらい、若者に継承しサポートできる立ち位置になりたい。

えたじまし

(公社)江田島市シルバー人材センター

ちくたんこうぼう

竹炭工房おおがき

～竹害を防ぎ有効活用し地域の活性化に寄与～



竹炭・竹酢液の商品群



インドネシアから来訪の若者に出張体験教室



民泊修学旅行生の体験教室

経緯

- 耕作放棄地の増加や高齢化に伴い繁殖力の旺盛な竹の繁殖による地力の弱体化や有害鳥獣の繁殖を防止するため、竹炭生産設備を建設。
- 竹を伐採し、高品質の竹炭や竹酢液を生産し、土産品や実用品に加工、販売。雇用の場としても活用。
- 竹細工や竹炭作り製塩などの体験教室を実施し、地元の小中高生を招き郷土愛の醸成。来島者にも体験観光を提供し江田島の魅力を発信したい。

取組内容

- 体験教室の実施
竹細工や簡易な竹炭作り等の体験教室を実施。竹炭工房おおがきのほか、Sea to Summitやフェスティバル江田島などでの出張開催をしている。
- 高品質な竹炭の生産
販売主力品である竹炭パウダー用の生菌基準値・水分量基準値・灰成分基準値・炭素同定率基準値等をクリアする必要があるため、前処理による水分含有率低減・炭化工程の温度管理の厳格化や出荷前検査による選別などを実施した。

活動の効果

- 高品質な竹炭の生産により、継続受注に成功している。(約2トン/年)
- 体験教室の積極的な展開により、竹炭工房の認知度が向上した。
- 国内の顧客訪問や商社との連携やWEB活用の宣伝により、新規継続受注顧客新規開拓に成功した。(約1,600名/年)

応募団体からのアピール・メッセージ

- 竹炭や竹酢液作りの技術レベル向上を図り、品質と歩留り向上により、販路の拡大と収益向上を目指します。
- 他団体との連携により、地域活性化につなげるテーマを開発し実施します。
- 体験型観光への貢献強化します。
- ご意見・ご要望をお寄せください。

広島県江田島市大柿町大原5093-1 Tel: 0823-57-7711

えたじまし

江田島市オリーブ振興協議会

～オリーブを地域振興の起爆剤に～



2019NHK杯国際フィギュアスケート競技大会
©Japan Sports



オリーブ収穫体験

経緯

- 気象条件・栽培の簡易性や農産物の6次産業化による将来性などを検討した結果、耕作放棄地解消策や産業振興の起爆剤になることに期待し、オリーブ栽培に取り組むこととした。
- 平成23年6月に、市内のオリーブ生産者、民間企業、JA、農業委員会、江田島市が中心となって「江田島市オリーブ振興協議会」を設立。

取組内容

- 平成22年度から苗木の購入助成を行い、市民へ約8割補助で提供。
- 市民を対象にオリーブの栽培講習会を実施。
- 毎年、オリーブ果実の収穫時期を迎える10月頃、市内のモデルオリーブ園で市民参加型の収穫体験を実施。

活動の効果

- 現在、栽培本数14,852本、栽培面積約28.1ha。
- 平成26年3月には栽培面積約6.6haのオリーブ園を整備し、現在、3社が参入し、約2,800本のオリーブを植栽。
- 全国都道府県対抗男子駅伝大会、世界フィギュアスケート国別対抗戦2017、2018NHK杯国際フィギュアスケート競技大会、世界フィギュアスケート国別対抗戦2019、2019NHK杯国際フィギュアスケート競技大会の表彰式にオリーブ冠を提供。

応募団体からのアピール・メッセージ

「官民一体となり、オリーブで島を元気に！」
江田島市は2011年から市民、行政、企業が一体となって、「島ぐるみ」でオリーブ振興に取り組んでいます。

きたひろしまちょう

北広島町農山村体験推進協議会

～北広島町 四季物語～



民泊家庭での家業体験の様子



芸北神楽「八岐大蛇」を鑑賞する学生たち

経緯

- H20年、定住促進・元気な地域を目指し、農山村体験交流プロジェクトを重点事業として、関係団体で協議会を結成。
- スキー人口減少により利用者が減少していた芸北地域の民宿を活用し、夏場に子どもたちの受入れを開始。H24年から町内全域に受入れ地域を拡大し、H27年から体験型修学旅行の受入れを開始。

取組内容

- 子ども農山村体験交流プロジェクト
広島県内の小学5年生児童を対象に、町内で民泊を行い田舎体験を提供。午前中は農林業体験や登山、湿原トレッキング、カヤック等の自然体験活動、午後は各民泊家庭で田舎体験を行う。
- 体験型修学旅行
国内外からの修学旅行を民泊で受入れ。1～2泊が基本で各家庭3～5名の生徒を受入れ田舎体験を行う。

活動の効果

- 民泊した児童たちは北広島町の自然と人々に触れ、お別れの際に涙し、再会を約束して出発していく。そして、約束どおり再び民泊家庭を訪れてくれる子どもたちも多く、中には高校生になっても訪れる子もいる。
- 北広島町が誇る伝統芸能である芸北神楽を民泊家庭と一緒に鑑賞するプログラムもあり、特に海外からの方は喜んでいただき満足度も高い。

応募団体からのアピール・メッセージ

夏は高原の涼しい気候を活かした自然体験活動を、冬には豪雪地帯であることを活かした雪山体験を、春秋には各民泊家庭で農作物の収穫と調理体験を行っている。1年中いつでも受入れでき、ありのままの田舎体験を提供するのが当協議会である。



株式会社ハートランドひろしま

～農・福連携、地域活性、みんな笑顔！～



養液栽培のホウレンソウと利用者



組合員交流会(トウモロコシの定植の様子)

経緯

- 生協ひろしまの組合員が安心して利用できる農産物を供給するためには、農業生産を身近に感じ、県内農業の実情を理解できる取組が必要と考え、農業に新規参入。
- 障がい者の雇用促進や社会参加を通じて地域社会での役割を果たしたいという思いで、農業と福祉の連携を始めた。

取組内容

- 省エネ・環境にやさしいフィールド養液栽培で、ホウレンソウを通年栽培。利用者が整地、収穫、選別、袋詰め等の全作業を行う。
- ミニトマト、大根、白ねぎ等をハウスや露地で栽培。ミニトマトは、各ハウスを担当制にし、利用者1名が責任を持って管理を行う。
- 組合員の家族が実際に農業を体験できる場として、組合員交流を年8回開催し、農業や福祉への理解を促進。

活動の効果

- 耕作放棄地を借受けし、ハウスの養液栽培26aや露地栽培117aを生産管理。
- 就労継続支援A型事業所として、設立時(H23年)10名の利用者からスタートし、現在は18名に増加。H29年度から3名を一般就労へと送り出すことができた。
- 組合員交流では、実際に植付や収穫などを体験することで、農業への理解、福祉の取組への理解を図っている。(参加者 H26年 167名 → H30年 427名)

応募団体からのアピール・メッセージ

将来的には、利用者の成長に応じて栽培面積を増やし、増加する耕作放棄地の解消を目指していきたい。また、地元農家との交流や地元生産物の直売などを進めるとともに、生協組合員の農園も作り、地域の活性化に繋げていきたい。

広島県山県郡北広島町川戸3413-2 Tel: 0826-72-8911


 じょうけんじ
浄謙寺

～身も心もよろこぶ芸北精進イタリアン～



スタッフとインターン生の調理風景



イタリアン精進料理の本膳、二の膳、デザート



食前の法話風景

経緯

- 芸北地域の魅力と、仏教を伝える活動をしたという思いを長年持っていた。
- H21年、『イタリアン精進レシピ』（本願寺出版社刊行）を読み、紹介してある料理がこの地でも採れる野菜を使っていたことから、新しいお寺の精進料理の可能性を感じた。農家や近隣の人々と連携する機会にもなると思い、H22年から取組を開始。

取組内容

- 地域の魅力と仏教を伝えるため、地元産野菜を用いたイタリアン精進料理を提供。
- まず本堂にて読経と説法。食事では伝統的な漆器を用いた本膳・二の膳・デザートのコース料理を供する。最後は茶室で和菓子と抹茶をふるまう。
- 近年、龍谷大学などの学生をインターシップ生として受け入れ、野菜の収穫や仕込みなども共に行っている。

活動の効果

- イタリアン精進料理に参加する者は年間約2,000人（H26～30年）。伝統的な仏教文化や日本の食文化にも触れる機会になっている。
- 料理に使われる野菜はほとんどが地元産。近年は料理に使ってほしいと珍しいイタリアン野菜を栽培する人が増えたり、来客増に伴い道中に野菜の無人市ができるなど地域にも影響をもたらしている。
- 定年後や転職後の再雇用のスタッフが多く、地域の雇用創出につながっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

今後は農村体験・料理修業のインターン生の受け入れ、宿泊希望のお客様への対応を進めていきたい。また、外国人に寺院での写経・読経・精進料理・茶道を体験してもらい、日本文化に触れてもらいたい。

広島県山県郡北広島町奥原161 Tel: 0826-35-0730

げいほくかや

芸北茅プロジェクト

～芸北の茅を使ってふる里を守ろう！～



中学生、先生、地域が一体となって茅刈り

藝州茅を一部使用した文化財の茅の葺き替え

経緯

- H24年、地域の山から広葉樹を切り出すことで景観や生物多様性を守り、地域通貨の使用で地域活性化に取り組む事業が芸北エリアで始まる。
- 小学校の授業で木の搬出から地域通貨を得る経験をした児童が、中学生になり「木は重たいが、草だと子どもでも持ち運べる」と考え、H27年に茅を受入れる市場を開く。

取組内容

- 芸北に生えている茅を刈り取ることで、スキ原の生物多様性を守り、またその対価である地域通貨の流通を通じて地域を活性化させる取組。
- 茅刈り体験のほか、1年に1度「茅金市場」を開き、芸北中学校の生徒が地域から茅の受入れを担う。
- 子どもだけでは難しい販売や営業、管理などを地域の大人がサポート。

活動の効果

- 芸北中学校とPTAが中心となって取り組むことで、子どもたちが地域の資源や自然、文化、経済について学ぶ機会になっている。
- 「げいしゅうがや藝州茅」として市場に受入れた茅が、広島県三次市の重要文化財に使用された。今後も、町内の文化財の修復や、個人宅の茅葺きに使用される。(市場に集荷した束数 H27年 40 → H30年 140)

応募団体からのアピール・メッセージ

茅プロジェクトから生まれる「かやぶき」

「か」貨幣経済：茅を資源として流通させ、地域の経済を活性化する。

「や」野生動物：茅を刈ることが草原の動植物を育み、獣と集落のバッファゾーンを形成する。

「ぶ」文化財：茅葺き屋根を葺く技術を伝承し、ふる里の景観や文化財を保存する。

「き」教育：草原の見学や、茅刈り・茅金市場などの活動を通じた地域学習を進める。

広島県山県郡北広島町東八幡原10119-1 Tel: 080-6334-8601 (芸北 高原の自然館)

おおさきかみじま

大崎上島海生体験交流協議会

～瀬戸内海に浮かぶ大崎上島 まるごと島体験～



櫂伝馬体験



農業体験

経緯

- 高齢化・過疎化問題の対応として、体験交流型観光を推進し、都市の学生と島の住民が交流を深め、地域の活性化や経済効果に貢献することを目指し協議会を設立。

取組内容

- 島民と都市の学生の人生に大きく影響を与える出会いを願い、平成25年度より民泊を利用した体験型修学旅行を誘致。30年度までに78校11,840人の中高生が修学旅行で大崎上島町へ来島。
- 第二の故郷として再び来島するきっかけづくりとして、「心豊かな田舎暮らし」を体験してもらうための伝統文化、漁業、農業、アウトドア、伝統工芸ものづくりなど、まるごと島体験メニューを提供。

活動の効果

- 大崎上島町にとって、修学旅行生による来島者数が増えることは観光振興だけでなく、地産地消・民泊体験料・お土産代による経済効果が得られた。
- 修学旅行生に田舎暮らしを体験してもらうことで、島民が大崎上島町の良さを再確認することができ、また、都会の子が島民との交流や自然に囲まれた田舎生活体験を通じて、心の豊かさを育み、人とのかかわりの大切さを実感し、島への移住者も増え、地域の連帯感や活性化につながった。

応募団体からのアピール・メッセージ

島の生活をまるごとそのまま体験し、島のあたたかい人柄にぜひふれあってみてください。

特定非営利活動法人広島・せらマルベリークラブ

～参加者も自分たちも楽しむ里山イベント～



イベント参加者



かやぶきの竪穴式住居の作成

経緯

- NPO法人設立当初は桑(マルベリー)を利用した地域おこしを目的としていたが、桑栽培が軌道に乗らず里山活用を目指す。
- 世羅町が進める「脱温暖化プロジェクトせら」と連携し里山活動とおした、脱温暖化と自然保護をテーマとした取組を始める。

取組内容

- 広島県立せら夢公園自然観察園と連携し絶滅危惧種を含む様々な自然観察会を実施。
- 広葉樹を切り倒しての椅子・置物作り、かやぶきの竪穴式住居の作成、小枝等を使った秘密基地作りなど子供を主役としたイベントを実施。
- 地域の歴史資源を再認識、活用を目指すため、史跡を巡るウォーキング大会、女性のための歴史入門講座等を実施。

活動の効果

- 世羅町が進めている「脱温暖化プロジェクトせら」や広島県立せら夢公園自然観察園と連携することにより、若い世代への引き継ぎを目指し、取組の趣旨に賛同する人が増えている。
- 「脱温暖化プロジェクトせら」のメンバーとして、脱温暖化の啓発と地域内エネルギー自給率の向上に向けた活動に貢献。

応募団体からのアピール・メッセージ

自分たちも楽しみながらをモットーとして息の長い取組を行っています。

あるぎ いなかおうえんだん
有木自治振興会 田舎応援団 あるぎ倶楽部

～田舎体験でまちづくり！有木自治振興会～



農業体験



田舎体験イベント「魚のつかみ捕り体験」

経緯

- 農山村が抱える悩み（農家の後継者不足等）と、都市住民が求める思い（農のある暮らし等）の掛け橋ができればと、平成18年度から「まちとむらの交流」農業ボランティアを活用する地域づくりをめざし、「あるぎ倶楽部」を結成。
- 平成24年度からは更なる交流人口の拡大のための、田舎体験イベントやツアーを実施。

取組内容

- 遊休農地での農業体験、地域の美化活動、地域の行事などに都市住民が参加することによる、地域活性化、農村景観の維持・管理・保全活動。
- 子どもや孫を含む家族連れでの参加者との農村の豊かな自然や美しい景観の中での「食と農」について学べる学習会の開催。
- 旧有木小学校を改装した、ビレッジハウスに仁吾川の指定管理を受け、周辺の観光資源を生かした都市住民との交流活動。

活動の効果

- 遊休農地での農業体験を行うことにより遊休農地活用のあり方について地域に提案することができ、年々体験農地も拡大している。
- 農業体験、美化活動等の波及効果として地域内の小規模高齢化集落が集落の賑わい創出のため「田植・稲刈り祭り」を開催するきっかけとなり、集落で生産される米を中心とした農作物が直接取引されるなど、交流を通じた「顔の見える農業」の橋渡しとなっている。

応募団体からのアピール・メッセージ

大正時代の趣が残り、囲炉裏のあるビレッジハウス仁吾川には、日本の農のある暮らしを体験しようと、海外からのお客様も来るようになりました。